

懐かしいあの日あの時 思い出写真館

町屋編

町屋駅とその周辺

町屋駅は、昭和6年(1931)の京成本線日暮里駅～青砥駅間の開業と同時に開設された高架の駅です。東京メトロ千代田線は、昭和44年(1969)に乗り入れました。また、都電荒川線も駅前に停留場があり、大正2年(1913)に稲荷前停留場(現、町屋駅前停留場)として開業しました。

昔から尾竹橋通り沿いには、多くのお店が商店街として建ち並んでいました。かつて都電荒川線のホームと商店街が一体化していた風景は、再開発により高いビルが建ち並び大きく様変わりしましたが、現在も町屋駅から連なる商店の多くは、地元の人々で賑わっています。

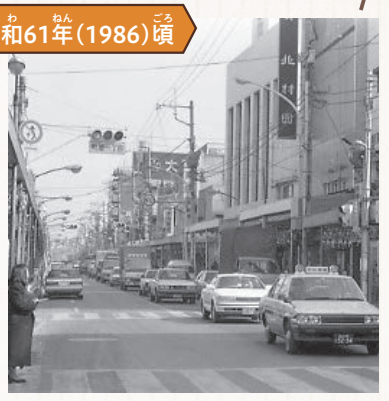
昭和26年(1951)頃

▶尾竹橋通りです。当時から通り沿いには、お店が建ち並んでいました



昭和61年(1986)頃

▲当時の尾竹橋通り沿いの商店街はアーケードでした



平成3年(1991)頃

▲駅周辺は昔ながらの街並みです。写真に写っている都電荒川線は、すでに引退した懐かしい車両です



▲開発前の町屋駅とその付近の様子です。線路の周りに比べ、建設中の建物が高く感じます

平成28年(2016)頃

▲再開発後の町屋駅周辺です。都電の停留場に沿って軒を連ねていたお店は高層ビルに代わり、昔の面影を感じることはできませんが、都電荒川線が走る風景は今も昔も多くの人に愛されています



Topics

新しい尾久図書館が開館しました

2月20日に尾久図書館が、場所を移動して新しく開館しました。新しい図書館は、宮前公園の中に建てられ、まるで自然の中にあるような木のぬくもりを感じられる明るい雰囲気です。見晴らしカウンターからは、公園をながめながらの読書ができ、晴れた日にはテラス席で飲食もできます。1階は、主に乳幼児から小中高生向けのフロア。2階は、大人向けのフロア。そして中2階は、吹き抜けで自然光が降りそそぐ開放的な空間で、子どもから大人までが交流できるスペースになっています。

みんなも新しくなった尾久図書館に、ぜひ遊びに行ってみてね。



▲建物の中は、いろいろな「ひろば」に分かれています

今昔ものがたり

【あらかわの歴史と伝説】

その129 「行く春や」と「花に樽」の句碑

～芭蕉さんをデビューさせたのは宗因さん?!～

「行く春や」の句碑 「行く春や鳥啼き魚の目は涙」。これは誰の句でしょう? 『あらかわ区報 Jr.』を読んでいるみんなには簡単な質問だったかな。そうだね、江戸時代に俳句で大活躍したまつお 芭蕉さんの句だね。今から332年前の元禄2年(1689)3月27日、芭蕉さんは千住大橋のたもとで江戸の町とお友達にお別れして、奥の細道の旅に出発した。その時詠んだのが「行く春や」の句だ。素盞雄神社(南千住六丁目)に、文政3年(1820)に建てられた句碑(区指定文化財)があるよ。

デビュー前の芭蕉さん 芭蕉さんは伊賀上野(三重県伊賀市)生まれ。29歳の時に一人前の俳人になるために、江戸に出て来たんだってさ。神田上水の工事に関わる仕事をしながら、京都の北村季吟さんの教えを受けたり、江戸の俳人や俳句が大好きなお殿様、磐城平藩(福島県いわき市)の内藤風虎さんと交流したりして、ネットワークづくりに励んでいたんだ。

「花に樽」の句碑 区内には俳句関係の史跡が多

【問合せ】荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234



いよね。西日暮里三丁目の養福寺には「談林派歴代の句碑」(区指定文化財)がある。真ん中の句碑は「梅翁花樽碑」とも呼ばれ「江戸をもつて鑑とす也花に樽」の句が刻まれているんだ。談林俳諧の祖の西山宗因(俳号・梅翁)さんの句だ。宗因さんは大坂天満宮(大阪府大阪市)にお教室を持つ連歌や俳句の有名な先生で、井原西鶴さんなどたくさんのお弟子さんがいた。芭蕉さんは弟子入りはしなかったけど、宗因さんの影響を受け、懸命に勉強していたんだよ。

宗因さんとの出会い 実はね、江戸に出て来て4年目の芭蕉さんは宗因さんとある所で出会っている。延宝3年(1675)、お殿様俳人の風虎さんが宗因さんを江戸に招待し歓迎会が開かれた。その時の記録に、芭蕉さんのもう一つの俳号・桃青の名が記されていたんだ。この出会いは風虎さんが仲介したのかもしれないけど、憧れの宗因さんの歓迎会のおかげで、芭蕉さんは江戸の俳句界へデビューできたんだよ。

区内には、日本を代表する俳人のお二人の句碑が二つもあるんだよ。今度、見学してみてね。



談林派歴代の句碑